

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0176700516		
法人名	株式会社 かやのみ		
事業所名	ぐるーぷほーむ かやのみ		
所在地	〒098-5711 枝幸郡浜頓別町北1条4丁目8番地 (電話) 01634-2-2115		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年9月30日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】 (平成 21年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10人, 非常勤 10人, 常勤換算	14.68人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,600 円	その他の経費(月額)	22,000~32,000 円	
敷金	有 ( 円 ) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 7月 1日現在 )

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	浜頓別町国民健康保険病院・中川町立診療所・はくちょう歯科医院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は移転した小学校の跡地を利用し、近くには商店街、病院、交番、保育所、美容院などがある。運営者は建築関係の会社を営んでいることもあり、全ての居室が南向きで自然な採光が射し込み、また廊下にて生活リハビリを行いやすいよう手すりの高さに考慮している。さらに、ユニット間にあるリビングの天井を高くし開放感ある空間とするなど、年配者の利用を主体とする建物に対する造詣が深く、随所に工夫を施している。職員は、利用者の尊厳を大切にしたい理念を常に意識し、チームケアに徹し計画から改善まで「みんなちがって、みんないい」を合言葉に家族や地域住民、そして宗谷地方の期待に応えようと努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題として、面会簿の記載方法や使用目的等についての家族の説明と秘密保持の徹底があげられていたが、職員で検討し、現在は改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者及び管理者は、評価の意義やねらいの重要性を理解し、自己評価・外部評価をサービスの確保と質の向上に活かしている。自己評価は新人職員もシートに記入し、全体で話し合っている。評価報告書を基に改善に向けた具体的な検討を行い、実践に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進委員は役場から2名、町内会長、町内有識者4名、事業所より5名で構成し、会議は2ヶ月に1度開催しており、事業所の運営や利用者の状況などを報告している。地域住民に事業所主催の映画会や夏祭りなどの参加を依頼し、また、委員からの意見や要望を受けたりして、今後の課題に対するモニター役になってもらうなど協力関係を構築している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を設置しており、利用者、家族の立場から意見や要望を気軽に伝えることができる機会を設けている。また、職員は、行事の際や来訪時などにも意見を聞くよう心がけている。家族から出た意見や要望の内容については、職員間で話し合い、サービスの向上に反映させている。また、内部・外部に苦情相談機関を設けるとともに、苦情処理における対処方法を明文化している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所を地域住民などに開放し、地域活動の拠点となる機能性を発揮しており、相互の協力関係を築いている。また、町内活動や地域行事に参加したり、毎年映画会や夏祭りなど事業所の行事への参加を得るなど、これらの活動を通じて支え合う関係が深まっている。さらに、役場担当者や地域包括センターとも、サービスの質の確保と向上のために情報交換や助言を得ている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の開設時に「自分らしい生活を過ごせるように」など誇りや個性を尊重するなど、地域で安心した暮らしを支えることを目指した事業所理念を標榜している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「みんなちがって、みんないい」を合言葉に、いつでも職員間で確認できるよう、玄関ホールをはじめ、数箇所に理念を明示している。それらを職員全員で共有しながら、日々のケアサービスの実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年の映画会や夏祭りなど、事業所の行事への参加を呼びかけたり、町内活動での祭事などに参加し、地域との相互交流に取り組んでいる。また、高校のクラブ活動、カラオケサークル、保育園児、友人知人などのボランティアのメンバーも自然な形で関わっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価の意義や重要性を理解し、新人職員も自己評価シートへ記入している。それらの評価報告書を基に、改善に向けた具体的な検討を行い、実践に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、事業所の運営及び利用者の状況などを報告している。地域の人達に事業所の映画会や夏祭りなどへの参加を依頼したり、委員からの意見、要望を受けて、今後の課題に対するモニター役になってもらうなど、協力関係を構築している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当者や地域包括センターとも、積極的に情報交換を行い、行政主宰の研修への参加するほか、助言、指導を仰ぐなど、連携を図りサービスの質の向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「かやのみ通信」は、利用者の日常生活情報を盛り込むなどの工夫をしており、家族から好評である。健康状態に変化があった場合は、その都度、迅速に家族へ電話連絡を行っている。また、金銭管理については、小遣帳のコピーと領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催により、利用者家族の立場から意見、要望を気軽に伝えることができる機会を設けている。また、職員は行事の際や訪問時などにも、意見を聞くよう心がけている。家族から出された意見や要望の内容については職員間で話し合い、サービスの質の向上を目指す取り組みにも繋がっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者とのなじみの関係を重視し、職員の異動や離職を極力抑えるよう努めている。職員交代時には事前に十分な説明などを行い、利用者の精神的な不安解消へのフォローを心掛けるとともに、サービスの低下にならないよう勤務体制にも配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格の取得については地理的な環境で難しい面もあるが、運営者は研修等の参加については積極的であり、勤務時間の弾力的運用をするなどして、職員各自に応じた学びの機会を保障している。研修後は、全職員が共有できるように報告会を開いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場主催のケア会議や研修会に参加したり、地域の特別養護老人ホームとの交流などで、ネットワークづくりも行っている。また、事業所見学を受け入れ、情報収集や意見交換をし、運営やケアサービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始前に事業所の見学や、他市町村の利用予定者であっても職員が自宅に出向き、なじみの関係作りをしている。また、場合によっては家族が宿泊を共にするなどの協力を依頼し、より安心感を得てもらうなど相談から利用に至るまで、利用者の視点に立ち柔軟に支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の暮らしの中で、利用者の興味のあることや得意なことを見極め、調理、野菜作りなど活躍できる場面を支援している。また、消極的な利用者に対しても、できる限り一緒に過ごす時間を多くし、学び支え合う関係性を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように暮らし、何をしたいかを聞き取り、利用者を交えてケアプランを作成している。また、意思疎通が困難な場合には家族や関係者から情報を得て、ケアプランに反映するよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるよう利用者の要望を聞き、家族の意見を含め、職員間での意見交換やモニタリング及びカンファレンスを行いながら、利用者とともに介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月ごとに見直しているが、介護計画と照らし合わせ、現時点での状況とサービス提供課題にズレがないかなどを、個人ケース記録等で確認している。それらをもとにミーティングやカンファレンスを毎月行い、達成状況を再確認している。利用者の状態に変化が生じた場合は速やかに、現状に即した新たな計画を作成している。	○	今後は、よりケアマネジメントが発揮できるよう、記入の方法の改善を期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院介助や買い物、外出時の付き添いなど柔軟な支援をしている。また、地域住民や家族などにも事業所を自由に開放し、職員が高等学校のヘルパー養成講座の講師を努めるなどもしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と連携しており、受診や通院への対応も家族の要望に応じている。その際同行した職員から、家族へ受診結果報告をしている。また、看護師が常勤しているため、利用者や家族は健康面について、いつでも気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間の医療連携体制を整備し、職員として配置した看護師が主治医と医療連携をとっている。それらをもとに重度化などに伴う意志確認書を作成し、事業所ができるケアについて家族に説明しており、利用者や家族の希望を確認しながら、重度化、終末期の情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会簿の記載方法や使用目的などについて、家族に説明している。個人情報に関わる書類については、事務所の書庫に保管している。また、職員は個人情報の秘密保持についてや、利用者の尊厳と誇りを傷つけることのないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や体調、ペースに合わせて、その人らしい生活を送れるよう個々人の生活リズムを大切にしている。散歩などの利用者の意向も尊重し、希望に沿えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採った山菜や、菜園で育てた食材を献立に組み入れたり、外食の機会を持つなど、食事が楽しみとなる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、原則的には週2回となっており、ゆったりとくつろげる雰囲気配慮し、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるよう支援している。今後は、曜日を問わず好きな時間帯に入浴を楽しめるよう、勤務体制の整備をする予定となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちや能力を活かした場面作りのため、歌う機会をつくったり、料理、畑仕事など一人ひとりの役割づくりの支援をしている。また、ドライブや地域行事に参加するなど、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化に繋がるよう、日々の散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。海やクッチャロ湖に白鳥を見に行ったり、花火大会など五感総てを刺激することにも配慮した体験型外出支援に取り組んでいる。また、個人毎の買い物支援にも対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、玄関にセンサーを付け、利用者の離脱を見逃さない細心の注意を払っている。夕方から早朝にかけては、防犯のために玄関のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回定期的に消防署や警察の協力を得て、消火訓練や火災通報の訓練などを行っている。災害時マニュアルも整備しており、今年度は全施設内にスプリンクラーの設置を行った。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に趣向などを確認し、普段から利用者の生活習慣や様子を観察しながら支援をしている。食事や水分摂取状況は、毎日チェック表に記録して、職員間で共有している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間に在るリビングは天井が高く、畳コーナーもあり開放感にあふれている。利用者はそれぞれ自分の居場所を確保しており、一人になれるスペースを用意している。観葉植物などが置いてあり、生活感、季節感を採り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者がそれぞれの好みやなじみの家具や装飾品などを生活スタイルに合わせて持ち込んでおり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。